



(株)ファーマ 一級建築士事務所

神奈川県横浜市神奈川区栄町6-1
 ポートサイドロア壱番館 2904号室
 TEL.045-444-0091 FAX.045-444-0092
<http://www.fa-ma.jp>

建築物の適正な修繕・保全のあり方を提唱 皆様の健全な住環境づくりに貢献します！

対談 代表取締役 望月重美 × インタビュアー「俳優」萩原流行

萩原 ビルの二十九階とあって窓いっぱい
 に横浜市内の素晴らしい眺めが広がって
 います。(株)ファーマさんでは建築物のマネジ
 メントを手掛けているようですが、具体的
 にどのようなことを行なうのですか。

望月 建物の劣化や不具合を診断し、必要
 に応じて外壁、構造などに適正な修繕や処
 置を施すことを主軸に、改修設計や工事会
 社選定のコンサルティング、工事監理、アフ
 ターケアまでを行います。日本の建築業
 界が長年にわたり提唱してきた「スクラッ
 プ・アンド・ビルド」に対し、定期的に建物の

状態に応じて修繕しながら維持管理を徹底
 し、技術力で建物の寿命を延ばそうとい
 うのが私たちのコンセプトです。

萩原 ビル・マンションのドクターですね。
 望月 そうですね(笑)。環境やゴミ問題を
 少しでも解決するためにも建築物の修繕は
 必要です。物を決して粗末にしない日本の
 伝統的な精神を建築業界で生かしつつ、環
 境保全や地域の健全なまちづくりへの貢献
 を信念にこれまで様々なビルやマンシヨ
 ン、施設の調査・診断、改修設計などに携っ
 てきました。ちなみに当社は創業から今年

で十周年を迎えますが、この間に手掛けた
 建物は一〇〇棟以上を数えます。

萩原 相当な実績ですが、「スクラップ・ア
 ンド・ビルド」ではなくリニューアルに着目
 した背景にはどのような考えがあったの
 でしょうか。会社を立ち上げられた経緯を
 交えて伺いたいと思います。

望月 私ほもともと建築の意匠設計を志望
 し、武蔵野美術大学の建築学科へ進みまし
 た。ところが大学院修了時は建築不況で、デ
 ザイナーとして採用してくれる設計事務所
 や建築会社は非常に少ない時期でした。そ

んな中、私はゼネコンに就職して現場監督
 を務めることに。
 萩原 建築デザインとは方向が少し違っ
 ってしまったんですね。

望月 結果的に建築現場を体験することで
 技術的な裏付けができ、自分自身のキャリ
 アとして取り込むことができました。平成
 になって環境やゴミ問題が世界的にクロ
 ズアップされていますが、日本でも建築物
 のリニューアルに価値を見出そうとの風潮
 が広がりがついたので、私はそれまでの
 経験を建物の修繕・維持に生かすことが
 できればと、コンサルティングを行ないな
 がら建物を調査・診断し、リニューアルしたビ
 ルやマンションに価値を見出し、こうと
 考えた次第です。

修繕で愛着あるまちづくりを

萩原 御社は今年で十周年ですが、創業当
 初、建築物の修繕や維持管理をメインにし
 た設計事務所は多くなかったのでは。

望月 そうですね。先発組で活躍されてい
 る設計事務所は数社ありましたが、まだま
 だ一般的ではなかったと思います。ちよう
 ど好景気の頃に建てられたマンションやビ
 ルに劣化が目立ち始めていた時で、お陰様
 で仕事には恵まれました。

萩原 そうしますと、ビルやマンションの
 修繕を次々に手掛けていったのですか。

望月 商業ビルや事務所ビルのオーナーは
 「ビルに手を加えず経費を抑えて現状維持
 でのしぎたい」との意識が先だと思いま
 す。それに対し区分所有のマンションでは世帯
 ごとに毎月定額のお金を積み立て、適切な
 時期がくれば修繕する準備をしていますの
 で、当社はこのようなマンションを中心に
 コンサルティングさせて頂いています。お
 陰様で東京・横浜から関東一円へエリアが

拡大し、更にはバブル期を中心に富士五湖
 や箱根などに建てられたリゾートマンシヨ
 ンも対象となりました。それらは普段あま
 り人が住まないことや、寒冷地による特殊
 な劣化の要素などもあり、調査・診断や修繕
 設計も経験が必要となります。

萩原 しっかりとした実績がなければ、ど
 んなにニーズが高くても受注を続けること
 は難しいと思います。望月社長にはゼネコ
 ンでの技術的な経験があるので、やはりそ
 れが次々と仕事へ繋がったのでしょう。

望月 実際の調査・診断、設計、工事監理、充
 分なアフター点検というプロセスが修繕の
 コンサルタントの基本です。私どもでは技
 術的なキャリアを根拠に的確な診断を实践
 し、材料の選定、工法の決定においても詳細
 に調べ、費用的にも無駄が出ないよう適正
 に建築物を処理することでリニューアルを
 実現します。仕上げるに隠れている建物の見
 えぬ部分にまで配慮するには、やはり技



